養育者の乳児の心への注目の適切さと豊かさの関連の検討

親子相互作用およびビデオ刺激を用いた測定法の関連の短期縦断的検討を通して

○小山 悠里

(東京大学大学院教育学研究科)

キーワード: マインド・マインドットネス, 適切さ, 豊かさ

Examination of the relationship between appropriateness and richness of parents' notice of their infants' mind

Yuri KOYAMA

(Graduate School of Education, University of Tokyo)

Key Words: Maternal mind-mindedness, appropriateness, and richness

目 的

生理的・心的に大人とは大きく異なった乳児を、養育者が「心を持った個人」として扱ってしまう傾向がある。このような養育者の傾向は、Mind-mindedness (Meins, 1997; 以下 MM) とよばれ、後の子どもの心の理解の発達などの帰結との関連が問われてきた (Meins et al., 2002; 篠原, 2011)。元来、MM は、適切性を必ずしも問わない心への注目として定義づけられていたが、「親子相互作用場面における養育者による適切な乳児の内的状態への言及」という操作定義が多く用いられるようになり、養育者が乳児の内的状態を適切に読み取る傾向とするむきが強くなっている (Meins, 2012)。このような状況を踏まえ、篠原 (2006) はビデオ刺激を用いた乳児に心的な帰属を行う傾向を測定する手法を考案し、前者の MM を「適切な MM」とし、後者を「豊富な MM」とした (篠原, 2013)。両者の MM とともに乳児の心への注目の異なった側面をとらえているものであると考えられる。

子どもの発達の帰結と MM との関連を検討していく際には、その質的な差異を検討していく必要があるが (Licata, Kristen, & Sodian, 2016)、2 つの異なった乳児の心への注目の関連は明らかではない。また、乳児の心への注目の仕方の質自体が子どもの発達とともに変化していく可能性も考えられるため (篠原, 2013; Arnott & Meins, 2007)、両者の関連は時間という観点も含めて検討される必要があると考えられる。以上から、本研究では「適切な MM」と「豊富な MM」の関連を、子どもの発達の転換期である月齢 6 か月から月齢 9 か月を取り上げ、短期縦断的に検討することを目的とする。

方 法

参加者 月齢 6 か月の乳児とその養育者 20 組を対象とした (男児 9 名, 女児 11 名)。母親の平均年齢は、34.4 歳であった ($SD = 4.35$, レンジ 26–44)。参加者は親子広場でのチャシの設置および子育て団体でのチャシの配布と雪だるま式により募った。

調査時期 第 1 時点目の調査は 2015 年 11 月–2016 年 9 月にかけて行い、第 2 時点目での調査 2016 年 2 月–2016 年 11 月にかけて行った。

調査場所 調査は調査参加者の家庭訪問により行った。

「適切な MM」の測定 Meins & Fernyhough (2010) にもとづき、約 20 分の母子自由遊び場面の観察をした。玩具は調査者が年齢にあったものをいくつか用意した。必ずしも玩具で遊ぶ必要はなく、普段通りの様子で過ごしてほしいことを伝え、それ以外の指示は行わなかった。2 点から録画した。親子自由遊び場面での養育者による乳児の内的状態への言及を Meins & Fernyhough (2010) をもとに抽出し、乳児の行動と照合させて適切性を判断した。全体の 1 割のデータを用い、評定者間一致率を算出したところ、 $\kappa = .86$ であった。残りのデータについては調査者一人で評定を行った。

「豊富な MM」の測定 篠原 (2006) の刺激を用い、養育者の乳児への心的帰属しやすさを篠原と調査者による 2015 年改

訂版を用いて評定した。調査者は事前に 50 名のデータを評定しており、測定法の考案者である篠原との一致率が $\kappa = .89$ であった。よって、今回のデータについてはすべて調査者が評定を行った。

結 果

「適切な MM」および「豊富な MM」の記述統計量については Table 1 に記した。「適切な MM」は、内的状態への言及総数を統制し、「豊富な MM」は発話総数を統制した。いずれの MM についても 2 時で大きな分散がみられた。Table 2 には、2 時点の MM の相関をまとめた。月齢 6 か月時点においては、「適切な MM」と「豊富な MM」との間の相関係数は小さく、有意ではなかった。一方で、月齢 9 か月時点においては、中程度の相関がみられるようになり、有意傾向であった ($r = .41$, $p = .09$)。MM の時点間の相関について「適切な MM」については 2 時点間で有意な相関はみられなかったが、豊富な MM については中程度の有意な相関がみられた ($r = .47$, $p < .05$)。

Table 1

	月齢6か月		月齢9か月	
	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>M</i>	<i>SD</i>
「適切なMM」 (%)	70	17.8	64	28
「豊富なMM」 (%)	41	14.6	41	16

Table 2

	月齢6か月		月齢9か月	
	1	2	3	4
月齢6か月				
1 「適切なMM」	-	.21	.21	.34
2 「豊富なMM」		-	.20	.47*
月齢9か月				
3 「適切なMM」			-	.41*
4 「豊富なMM」				-

考 察

2 時点間で「適切な MM」については有意な相関がみられなかったことから、時間的な安定性が認められなかった。一方で、「豊富な MM」については養育者の比較的安定した特性としての MM をとらえていたと考えられる。「適切な MM」は、母子間の相互作用場面において発揮されるものであり、月齢 6 か月から月齢 9 か月の乳児の発達に伴って、その現れ方が変化したためと考えられる。また、月齢 6 か月では「適切な MM」と「豊富な MM」の間に有意な相関がみられなかったが、月齢 9 か月では有意な中程度の相関がみられた。このことから、養育者の乳児の心への注目の適切さと豊富さは月齢 6 か月時点では異なったものであるが、養育者と乳児のやりとりの経験の蓄積や乳児の発達に伴う意図の明確化の中で心に注目しようとする養育者の意図としての豊富さと成功である適切さは重なりを増すのかもしれない。

主要引用文献

Meins, E., & Fernyhough, C. (2010). *Mind-mindedness coding manual, Version 2.0*. Unpublished manuscript. Durham University, Durham, UK.

篠原郁子 (2006). 乳児を持つ母親における mind-mindedness 測定法の開発 母子相互作用との関連を含めて. 心理学研究, 77, 244–252.